

大広間

概要

旧公会堂が建てられた当時、函館で唯一の集会場所であり、部屋は様々な目的に使用されていました。1927年、芥川龍之介（1892～1927年）と里見弴（1888～1983年）による講演会には、1,000人が参加しました。保護のため、現在の収容人数はXXXX人に制限されています。

天井

大広間には、アーチ型の天井を壁面とカーブのかかった梁で支えています（柱はありません）。最近の平成～令和修理（2018-2021）では、崩壊や漆喰の脱落を防ぐため天井が補強されました。

中心飾り（復元）

大型の中心飾は、昭和修理（1980-1982）の際に復元されました。それはアカンサスと扇の繊細な彫刻が特徴で、旧公会堂で最大の中心飾です。

演壇の手前の上の壁のレリーフは、昭和修理（1980-1982）の際に修復されました。中央の花瓶から左右に伸びる唐草模様が描かれています。

リノリウム

リノリウムは寄木細工のようなデザインで、濃い茶色の地に薄茶色の斜めの格子模様があります。古写真と当初のリノリウムの残片に基づいて、昭和修理（1980-1982）、および最近の平成～令和修理（2018-2021）時にデジタル印刷技術で作成されました。

シャンデリア（修復）

元のシャンデリアは失われましたが、これは昭和修理（1980-1982）の際に、古写真と他の部屋のシャンデリアを参考に作成されました。

照明器具

演壇の両脇の柱や天井にあった当初の照明器具は保管されており、昭和修理（1980-1982）の際に復元されました（1926～1989年）。